

## 「7 月度研修会／先端研」報告

修習技術者支援実行委員会 委員補佐  
平塚由香里 技術士(電気電子部門)

### 1. 研修会概要

日 時 平成 22 年 7 月 10 日 (土)  
13 : 00～20 : 00  
主 催 社団法人日本技術士会  
修習技術者支援実行委員会  
会 場 日本技術士会葺手第二ビル 5 階

### 2. 研修会の内容

|  |                        |
|--|------------------------|
| 開催説明・講師紹介<br>修習技術者支援実行委員会  | 13:00～13:10<br>齊藤 康範   |
| 講演① 「環境保全と技術者の倫理」<br>峯岸律子技術士事務所 所長<br>技術士 (建設部門)                       | 13:10～14:00<br>峯岸 律子氏  |
| 講演② 「技術者倫理教育の教材活用について」<br>日本工営 (株) 技術情報・人材開発センター センター長<br>技術士 (応用理学部門) | 14:00～14:50<br>佐々木 寿朗氏 |
| 休憩   | 14:50～15:00            |
| 講演③ 「技術者倫理事例の学び方」<br>オカダ・アソシエーション技術士事務所 所長、技術士 (建設部門、総合技術監理部門)         | 15:00～15:50<br>岡田 恵夫氏  |
| 休憩   | 15:50～16:00            |
| 第 276 回先端複合技術研究会<br>司会   | 16:00～18:00<br>高橋 康朗   |
| 情報交流会  | 18:00～20:00            |

### 3. 研修会の参加者

今回の研修会の参加者は 40 名であり、技術者倫理というテーマによるものか幅広い

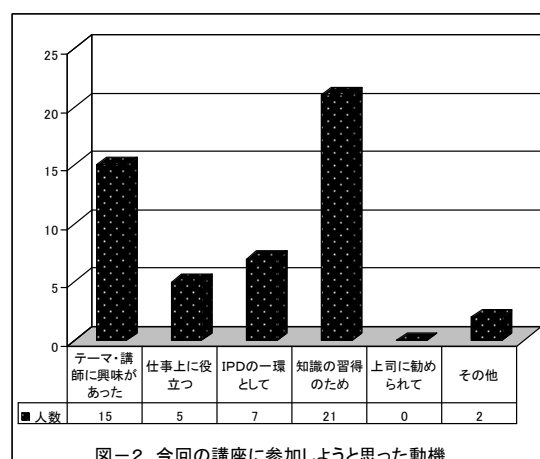
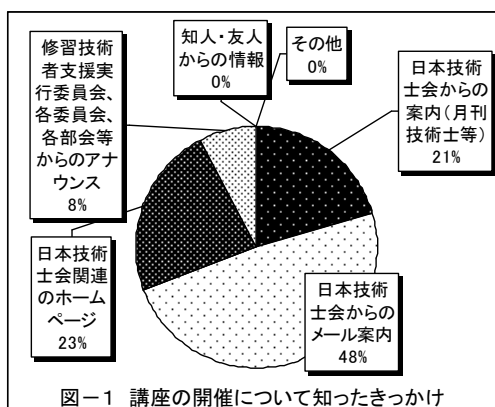


図-2 今回の講座に参加しようと思った動機

年齢層及び技術部門からの参加があった。また、参加するきっかけを図 1 に、参加の動機を図 2 に示す。

### 4. 研修会状況について

今回の研修会の課題は、「行動原則」－技術者の責任とその教育－であった。今回のセミナーは技術者倫理について、大学での講義、学協会の教材、倫理事例の学びと様々な角度から学び考える貴重な研修会となった。さらに、10 月の研修会へ向けての課題の提示もなされた。



写真 1 : 研修会の状況

#### ◆ 講演①について

峯岸氏の講演は、大学での技術者倫理教育の 1 テーマである「環境保全の経緯と技術者の姿勢」についてご紹介頂いた。持続可能な社会の実現には、「技術」、「制度」、「意識」の 3 つの力が必要であり、将来世代、人類全体、自然環境への思いやりという環境倫理の理念がそれを支える。この中で技術者は、「未来に生きる子どもたちのために」という思いと環境コミュニケーションを通じて人々の

「意識」に働きかけていくという姿勢をもつ必要がある。そして、科学技術の専門家として、公衆と双方向に情報交流を図る役割を担っているということを認識させられた。



写真2：峰岸氏の講演状況

#### ◆ 講演②について

佐々木氏の講演は、6月に土木学会より発行された教材「土木技術者倫理問題 考え方と事例解説Ⅱ」について、作成までの経緯、特徴、及び重要事例についてご解説頂いた。

教材には、理念から実践への趣旨のもとに、実例をもとに考え方と観点が提示されている。そのため、事例への対応を通して、現場に即した技術者倫理を学ぶことができ、参加者にとって身近で興味深い内容であった。



写真3：佐々木氏の講演状況

#### ◆ 講演③について

岡田氏の講演は、毎年10月に実施される修習技術者研修会での技術者倫理事例のケーススタディのあり方の変遷と現在目指している方向性を示すことで、研修会参加の意義を考えるための話題を提供頂いた。

単に答えを求めるのではなく、討議のカテゴリーを重視し、限られた時間内で、計画的に

討議・検討し、立案・実行するプロセスを実践する学び場であると再認識させられた。



写真4：岡田氏の講演状況

#### 5. 先端複合技術研究発表会

先端複合技術研究発表会では修習技術者3名（長谷川淳一氏、阪田研一郎氏、長谷川忠正氏）の発表及び、活発な質疑応答があった。

長谷川氏からは、高校時代に研究された画像用文字認識ソフトの研究開発について、研究内容及び、研究過程における考察についての発表があった。取り組まれた内容は高校生としては、素晴らしいものであったが、研究の進め方に関して、参加者の方から様々な質問や改善箇所が挙げられた。

阪田氏からは、勤務されている医療機関内の施設や設備についての法令順守に関する分析・評価を衛生工学5分野に照らして取り組まれ、問題点抽出と課題解決を実施された内容について報告された。労働安全衛生管理に衛生工学部門の技術者としての観点をを用いた興味深いものであった。会場からは、廃棄物の管理に対する関心の高さが伺える質問が挙げられた。

長谷川氏からは多量の油脂を含む試料に対するシアン化物の回収率を向上させるための初期検討結果についての発表があった。一般にはなじみの薄いシアン化物の分析について丁寧な説明をされており、その難しさを伺い知ることができた。

#### 6. 情報交流会

研修会終了後、会議室で交流会を行った。遠方から参加されている方も多く、多彩な交流により有意義な時間を過ごした。

以上